

集団を鍛える学級づくり授業づくり

## 集団で学ぶことの意義

いずみ学力研 金井 敬之

### 教え合い

子どもたちが集団で学ぶ意義は3つあると思っています。

ひとつは、教え合いができることです。学級は同年齢の子どもたちの集団ですが、学習が得意な子やそうでない子、おとなしい子やにぎやかな子などいろいろな特徴の子がいます。今、大阪では算数を中心に習熟度別学習が行われていますが、少し前の朝日新聞に次のような記事が出ました。大阪府教委の岡田和子・学力向上支援担当部長によると、「分からない子」を周囲の子が引っ張り上げようとしたり、「分かる子」が教師の言葉をかみ砕いて周囲に伝えたりと、

様々な「化学変化」が起きそう



西見誠一

### 学力向上と多様性

夕べに考える

教育情報誌「内外教育」（時事通信社）で、興味深い記事を読んだ。公立の全小中学校に習熟度別授業を導入している大阪府教委の幹部が、「習熟度の異なる子がグループにいる方が、より学習の理解が進む」と断言しているのだ。どうということ？ その人、岡田和子。学力向上支援担当部長に会いに行った。「わたしも当初は、一律に能力がそろっている方が教えやすいと思っていたんですよ。ところがですね……」

「ゆっくり」「どどん」などコース名は様々だが、大阪市の場合、どちらの授業を受けるか子ども自身が決める。能力的には上なのにあえて「ゆっくり」を選ぶ子もいるし、その逆もある。すると「分からない子」を周囲の子が引っ張り上げようとしたり、「分かる子」が教師の言葉をかみ砕いて周囲に伝えたりと、様々な「化学変化」が起きるといえる。

改めて公教育の役割を考えた。能力も考え方も家庭環境も違う子が集い、互いに刺激を与えあう。その神髄は多様性だろう。不寛容で排他的な風潮が広がる昨今の状況をみるにつけ、その重要性はますます大きくなっていくように思う。

す。

以前から、久保齋先生のいう「子ども語」で説明するのわかりやすいことと同じことを話しています。

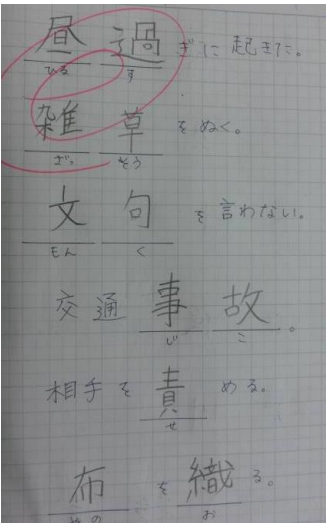
### 社会的促進

ふたつめは、集団の熱気で学習ができることです。クラスでは、まわりのみんなががんばっているから、自分もがんばることが出来ます。100マス計算をクラスですると、みんな集中して計算に取り組みます。家で宿題として100マス計算をする場合に比べて、集中力が増し、タイムが伸びます。この事実は、ぼくたち教師が、日常的に実践的に感じていることですが、心理学では「社会的促進」（多数の人が集団内で同様の作業を行う状況下では、作業が促進され作業量が増大するというもの。アメリカの心理学者のオルポートが提唱した理論）と言っています。

集団の熱気を高めるために、学習活動をイベント化するのも1つの方法です。以前、漢字50問テストの

ことを、広場の原稿に書きましたが、テストの日にちを伝え、学級通信などで、漢字の範囲を伝えると、子どもたちのやる気が増します。(90点以下は再テストという条件を子どもたちは特に気にしていませんが)

2学期の終わりに50問テストを実施しました。3人の子が、おうちの人に問題を作ってもらって、自ノートに勉強をしてきました。5年生でも、おうちの人の協力がありました。個人懇談会でも話題になりました。イベント化した結果といえるのかもしれませんが。漢字大会、計算大会と名付けて、実態調査に取り組んでいる学校もあります。



### ひとりができる回数

みつつめは、「1000匹目のサル現象」(イギリスの科学者ワトソンの話)ではありませんが、ひとりができるようになる、次々としてできる子が増えていくことです。

このことも、ぼくたちが教室で経験していることですが、100ます計算で、ひとりが1分台になると、次々に2分を突破していきます。

低学年での経験ですが、なわとびの二重跳びも(なわとびは教室ではできませんが)ひとりができると、次々としてできるようになります。

学習ではありませんが、けん玉の日本一周などのむずかしい技も、だれかができると何人もの子ができるようになります。

だれもできないうちは、果たしてできるのだろうか、きつと自分もできないだろうと思いつながら、練習をしているのかもしれませんが。

クラスのだれかができると、あの子ができるなら、自分にもできるかも

しれないという気持ち芽ばえるのでしよう。近くに同年代のモデルがあるというのが、大きいと思います。もちろん、子ども同士の教え合いもあるのだと思います。

### 余談ですが

クラスで話し合い活動をさせるとき、みんな得意を出し合って話し合います。という指示だけでは、話し合いがなかなか活発になりません。だれかがしてくれるだろうという社会的促進の逆の現象の「社会的抑制」(集団的手抜き)が起こりがちだからです。その場合は、ノートに自分の意見を書かせて、それをみんな読んで読み合っているから話し合いをする、自己を誇示する気持ちと他人からの評価を気にすることから社会的促進が生まれやすく、話し合いが活発にすすみます。まず自分の意見をノートにかかせるという作業は授業でよくさせることですが、社会的促進という面でも大きな効果があります。